

# Make HouseのDX

2024年7月

Make House 株式会社

## 01 / 当社経営の方向性

## 02 / DX戦略骨子

1. 社会へのお役立ち
2. 事業DX
3. 社内DX

## 03 / DX推進体制

## 04 / DX基盤整備

## 05 / 主な成果指標

昨今の建設業界では就労人口の減少や働き方の多様化により、数多くの課題に直面しています。労働集約型であるため、生産性および効率性の向上が特に求められています。これらの変化に対応し、課題に対処するため、当社はデジタル技術とデータ活用により、新たなビジネス価値を創出し、全ての関係者に価値を提供することを目指します。

1. お客様のビジネス成長を全力で支援するため、これまで培った現場理解と技術を活かし、業界と顧客ニーズに柔軟に対応し、最適なソリューションを提供します。
2. 労働生産性の向上と従業員のエンゲージメント強化のため、積極的に社内の組織変革に取り組んでいます。

このように、私たちは、お客様の現場に寄り添い、お客様にとって本当に価値あるソリューションを提供してまいります。

Make House 株式会社  
代表取締役 眞木 健一

1

## 社会へのお役立ち (DX貢献)

Make Houseの  
**現場知見**と創業来培った  
**デジタル技術**で、お客様を  
**作業からカイホウ**します

BIM (Building Information Modeling)  
を活用した営業ツールや設計ツールを  
提供することで、工務店様の営業や設計  
にかかっていたコストを大幅に削減

2

## 事業DX貢献

データを活用し、  
**顧客を知る**ことで、  
**顧客接点強化**

顧客情報の一元管理し、社内で共有する  
ことと、AI×データで顧客のニーズや  
行動パターンを把握し、よりパーソナ  
ライズされたサービスを提供します

3

## 社内DX

クラウドを利用し  
**データを基軸**に情報  
共有による業務改革、  
事業推進

クラウドおよびデジタル技術の活用によ  
る業務の効率化と競争力の強化を  
図り、持続可能な成長を実現すること  
を目指します



1

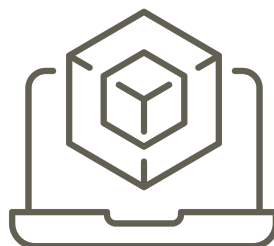
## 顧客管理の システムの導入



顧客情報を管理し共有するためのCRMシステムを導入しております

2

## 設計活動における AIツールの導入



設計作業においてはBIMを用いた設計作業にAIを導入することで設計情報の生産性を高めていきます

3

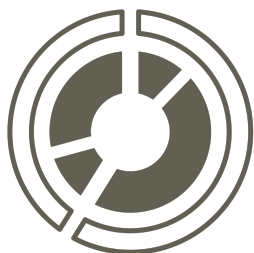
## グループウェア Slackの運用定着



クラウド型のグループウェアでの社内の文書の一元管理や、社内チャットやSNSを使ったタイムリーな情報共有に積極的に取り組んでいます

1

## 専鋭領域の 事業構成比



当社の強みであるデジタル技術を活かしてお役立ちする注力領域（DX関連領域）の売上構成比

2

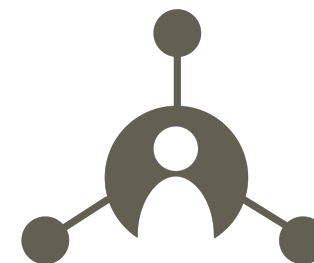
## 営業活動および 設計活動の効率化 指標



営業部、設計部においての業務削減時間、1件当たりの開始から完了までの平均時間

3

## 情報共有割合



グループウェアの利用率と共有されている案件情報の割合